

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービスあんじゅ			
○保護者評価実施期間	2025年 10月 1日		～	2025年 10月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	16人(兄弟3組)	(回答者数)	13人(兄弟3組)
○従業者評価実施期間	2025年 10月 1日		～	2025年 10月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5人	(回答者数)	5人
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 12月 5日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童の特性を理解し療育へあたっていること	職員全員が保護者様に記入いただいたアセスメントに目を通す。又、プランも全員周知し療育に努めている。	職員間での細かい伝達もミーティングだけではなく会社の情報伝達ツールを活用する。
2	1日の支援プログラムが固定化されていないこと	週案や月案を主任主導の下、職員で作成している	前の日や当日の朝のミーティング前に最終確認を行う。
3	文字を大きくしたり、ボックスにて配慮を加えている。	児童棚や靴箱には児童の顔写真を貼っている。	児童によって使いやすい絵カード等を増やしていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域の子供たちとの交流の機会が少ない。	通所している児童の年齢差（幼い子）があり近くの公園くらいしか行っていない。	地区センターの催しなどの情報収集を増やしフリーペーパーなども確認してへ、もう少し積極的に参加出来るように務める。
2	保護者会などの集まり。	・お客様用の駐車場の確保が難しい。 ・お仕事をされている保護者さんが多く日時を定めることが難しい。	・当事業所ではなく場所を借りて開催することも含めて考えていく。 ・何グループかに分けて行う等。
3	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイスや助言等を受ける。	障害児地域支援マネージャーの方の訪問の際などには相談させて頂いている。	必要な事柄に応じてアポイントメントを取り訪問ではなくてもZOOM等で可能か調整を行っていきたい。